

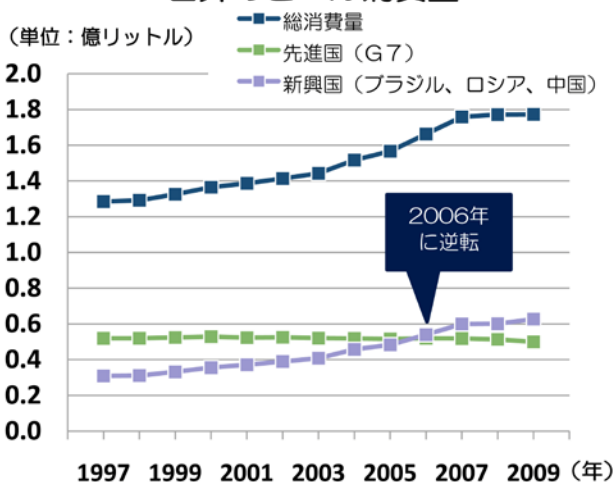
増え続けるビール消費量

日本の平均気温は14年連続で上昇しており、今年も猛暑になるとみられています。夏場の節電に向けて、さまざまな暑さ対策グッズの売上が急拡大しているようですが、暑い時に消費拡大が期待されるもののひとつがビールです。世界のビールの消費量は増加傾向にあり、2009年の世界のビール総消費量は24年連続の増加を記録しました。先進国の消費量は停滞している半面、増加の後押しをしているのは、経済成長の著しい新興国であると言われています。

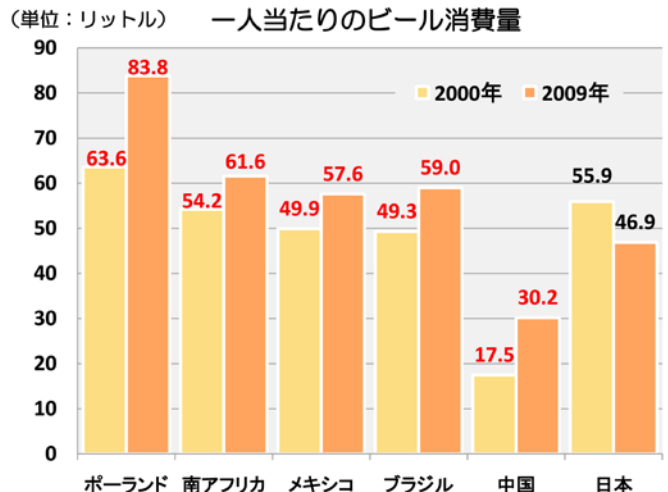
「ビールの消費量世界第1位が中国である」ということは、読得vol.15「ビールから見た消費市場としての新興国」でお伝えしましたが、一人当たりの消費量では、中国の2009年一人当たりの消費量は30.2リットルと、2000年と比べて約1.7倍に増加しました。しかし、これは一人当たりの消費量が世界第1位のチェコの142.3リットルと比べると、約5分の1程度です。つまり、所得水準の上昇とともに一人当たりの消費量が高まる余地があるとも言えるのではないのでしょうか。中国ビール市場を巡っては、各国のビールメーカーが続々と参入しており、さらに競争は激しくなると見込まれています。

同様にブラジルやメキシコ、ポーランドなどの新興国でも一人当たりの消費量は伸びており、新興国のビール市場には、大きな期待が寄せられています。

世界のビール消費量



主な新興国と日本の一人当たりのビール消費量



※本文データ出所：キリンビール (出所) キリンビール、キリンホールディングス キリン食生活文化研究所 ※推定値

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複製、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。<審査番号: 53602.OTHER.MED.OTU>

© 2011 Goldman Sachs. All rights reserved.